

報道機関各位

一般財団法人 とうほう地域総合研究所  
理事長 阿部 隆彦

## 第 2 回「ふくしま景気ウォッチャー調査」アンケート結果について

当研究所では、街角の景況感調査として、6 月に実施した第 1 回調査に続き、標記アンケートを 10 月に実施しました。内閣府の景気ウォッチャー調査では、県別の数値が公表されていないことから、同調査の福島県版として当研究所で独自に実施しているものです。本調査では、回答対象者を一般消費者に身近に接している小売や飲食などの「家計動向関連」に限定しています。

今般、調査結果をとりまとめましたのでお知らせいたします。今後、本調査は 4 月と 10 月の年 2 回実施する予定です。

なお、詳細は当研究所機関誌「福島の進路」12 月号(11 月 26 日発行)に掲載するとともに当研究所ホームページでも公表いたします。

### 1. 消費動向

ウォッチャー（アンケート調査回答者）が日々の仕事を通じて接する顧客の様子から把握できる消費動向（購買状況）について尋ねた。

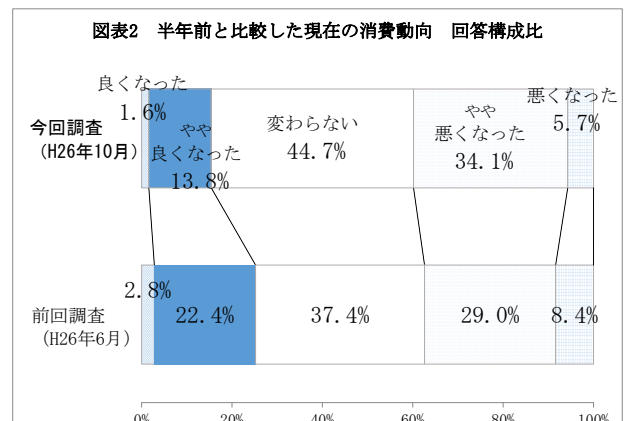
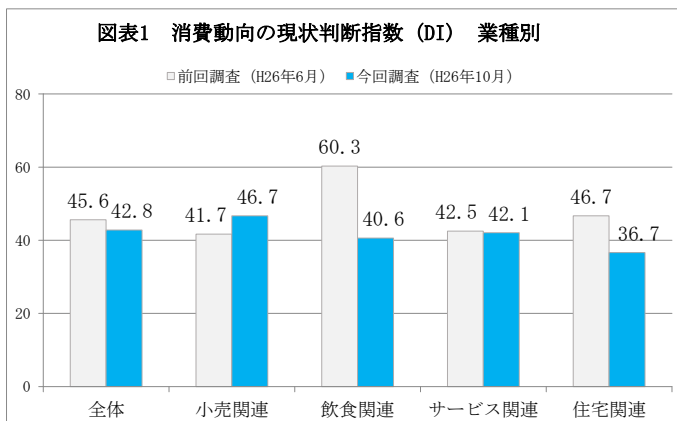
#### (1) 消費動向の現状判断（半年前と比較した現在）

**マイナス判断するウォッチャーが約 4 割を占め、下降基調と判断された。**

- 消費動向の現状判断指数は 42.8（前回調査比△2.8 ㊦）であり、横ばいを示す 50 を下回った（図表 1）。
- 「悪くなった」「やや悪くなった」と現状を厳しく判断したウォッチャーが合わせて約 4 割を占めており、前回調査と同様に半年前と比べて消費が下降基調にあると判断されている（図表 2）。

#### ◇業種別

- 前回調査を上回ったのは、小売関連の 46.7（同+5.0 ㊦）のみであった（図表 1）。「良くなった」「やや良くなった」のプラス判断の理由は、「来店客数の増加」が多かった。
- 飲食関連は 40.6（同△19.7 ㊦）と前回調査比で大きく低下した（図表 1）。「悪くなった」「やや悪くなった」のマイナス判断の理由は、「来店客数の減少」が多かった。



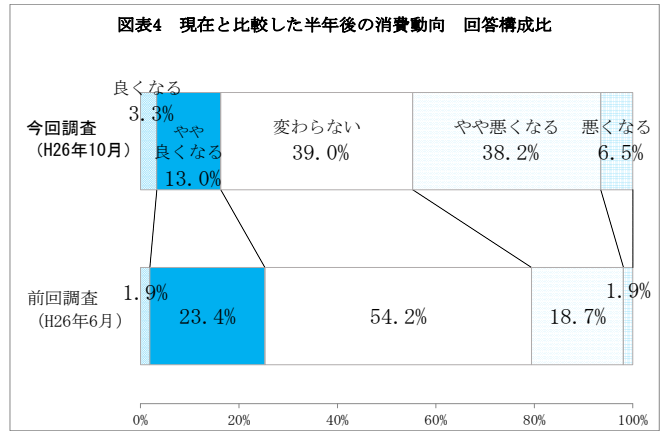
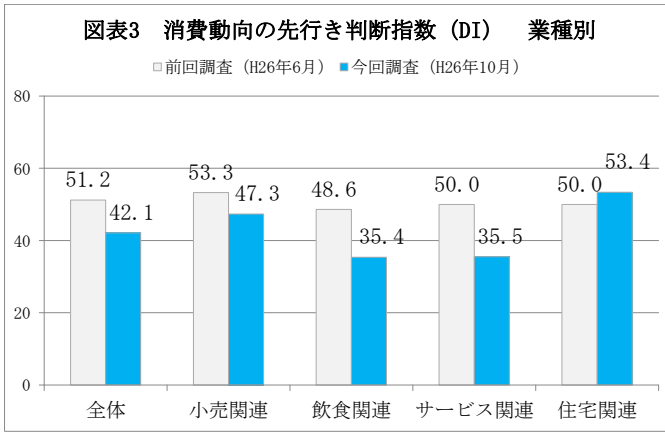
(2) 消費動向の先行き判断 (現在と比較した半年後)

**マイナス判断するウォッチャーが4割超となり、下向くと判断された。**

- 消費動向の先行き判断指数は42.1 (前回調査比△9.1 ㊦) と横ばいを示す50を下回った (図表3)。
- 前回調査と比べると、「悪くなる」「やや悪くなる」とマイナス判断した割合が4割を超えており、先行きを不安視するウォッチャーが多かった (図表4)。

◇業種別

- 住宅関連が53.4 (同+3.4 ㊦) と唯一50を上回り、上昇基調であると判断された (図表3)。「良くなる」「やや良くなる」のプラス判断の理由は、「消費意欲の改善」が多かった。
- 飲食関連は35.4 (同△13.2 ㊦)、サービス関連は35.5 (同△14.5 ㊦) と前回調査比で大きく低下し下降基調と判断された (図表3)。



2. 景気動向

ウォッチャー自身の身の回りの景気 (経済情勢) について尋ねた。

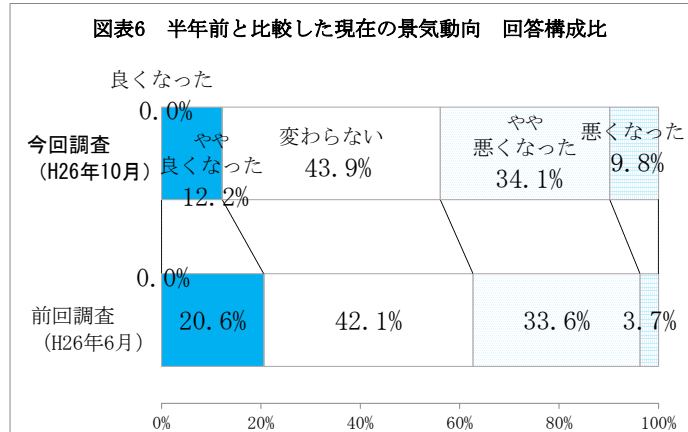
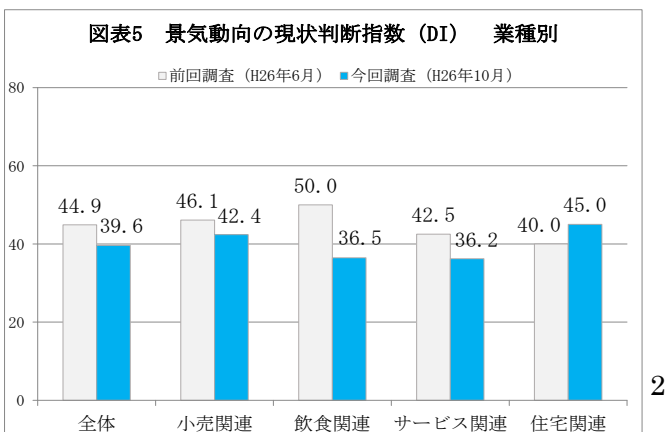
(1) 景気動向の現状判断 (半年前と比較した現在)

**現在の景気はすべての業種で半年前と比べ下降基調と判断された。**

- 景気動向の現状判断指数は39.6 (前回調査比△5.3 ㊦) であり、横ばいを示す50を下回った (図表5)。
- 「やや悪くなった」「悪くなった」とマイナス判断した割合が約4割を占め、景気の現状を厳しく捉えているウォッチャーが多かった (図表6)。

◇業種別

- すべての業種が50を下回っており、下降基調と判断された。中でも飲食関連は36.5 (同△13.5 ㊦) と前回調査に比べ大きく低下した (図表5)。



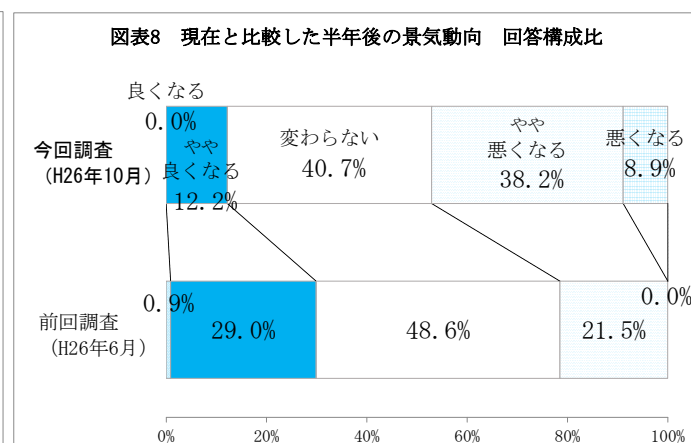
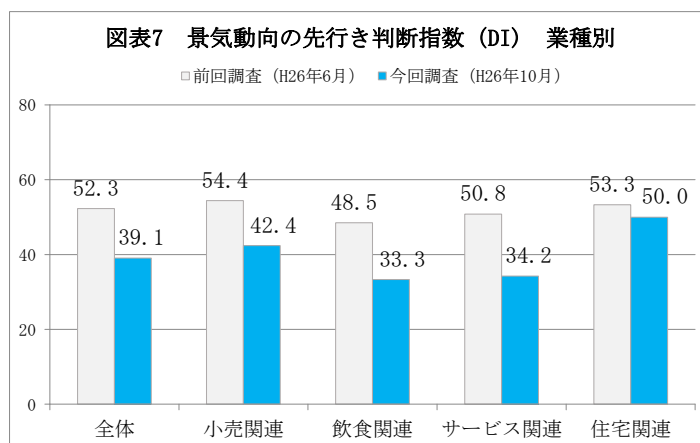
## (2) 景気動向の先行き判断（現在と比較した半年後）

半年後の景気は下向くと判断が半数近くを占めた。

- ・景気動向の先行き判断指数は 39.1（前回調査比△13.2 ㊦）であり、横ばいを示す 50 を大きく下回った（図表 7）。
- ・「良くなる」と回答したウォッチャーはおらず、「やや良くなる」とプラス判断した割合が約 1 割に対し、「やや悪くなる」「悪くなる」とマイナス判断した割合が約 5 割に達した（図表 8）。

### ◇業種別

- ・住宅関連 50.0（同△3.3 ㊦）を除き 50 を下回っており、中でも飲食関連が 33.3（同△15.2 ㊦）、サービス関連が 34.2（同△16.6 ㊦）と大きく低下した（図表 7）。



## 3. 地域別の消費・景気動向

景気動向は、現状・先行きともに下降基調と判断された。

### ◇消費動向現状判断

相双が 53.6（前回調査比+7.8 ㊦）と 6 地域の中で唯一 50 を上回り上昇基調と判断された。いわきは 47.7（同△5.7 ㊦）と低下したものの、復興需要が下支えとなり中通りと会津に比べ判断指数の水準が依然として高い（図表 9）。

### ◇消費動向先行き判断

全ての地域が 50 を下回り、最も高いいわきでも 45.3（同△7.0 ㊦）にとどまった（図表 9）。

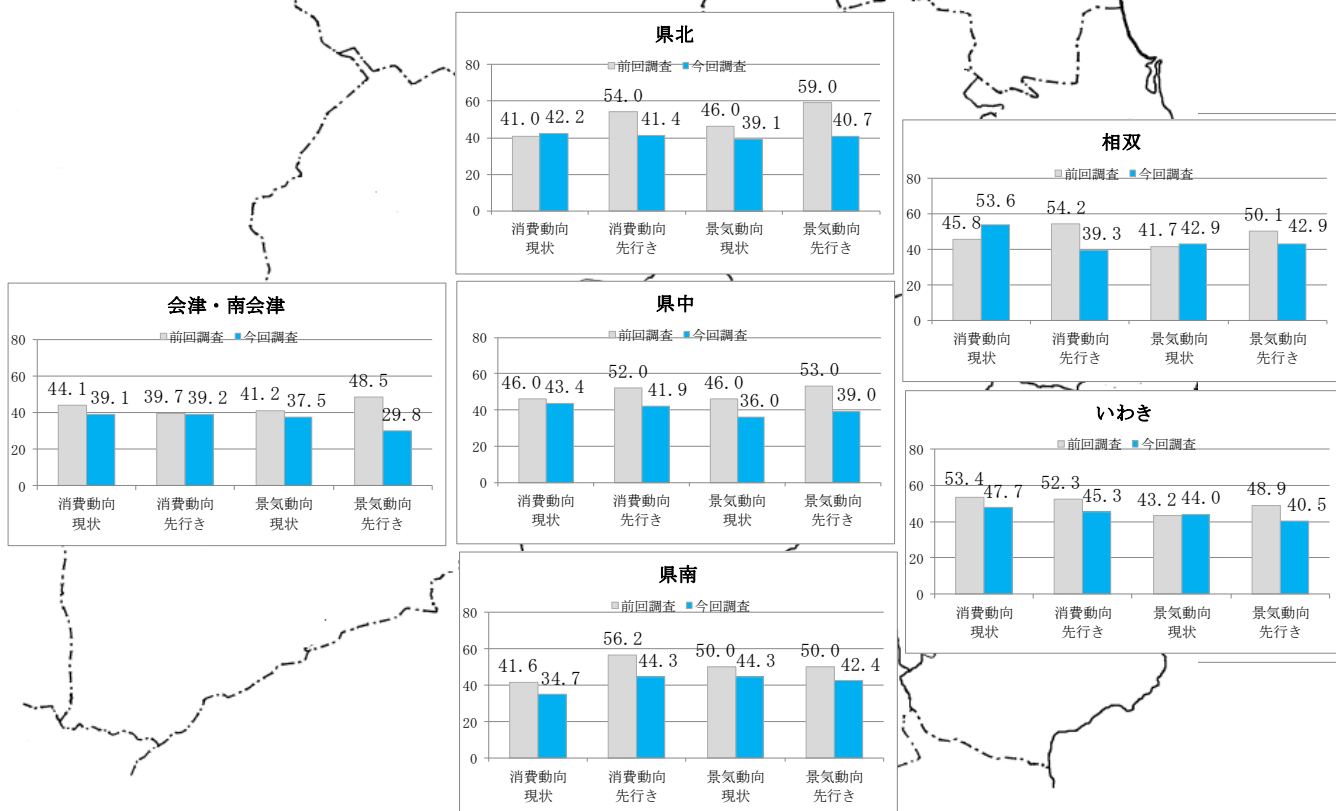
### ◇景気動向現状判断

最も高い県南でも 44.3（同△5.7 ㊦）にとどまった（図表 9）。県北、県中、会津・南会津では、「やや悪くなった」「悪くなった」とマイナス判断した割合が約 5 割を占め、いずれも判断指数が 30 台と厳しく現状判断している。

### ◇景気動向先行き判断

最も高い相双でも 42.9（同△7.2 ㊦）であり、最も低い会津・南会津は 29.8（同△18.7 ㊦）にとどまった（図表 9）。

図表9 地域別の消費動向・景気動向判断指数 (DI)



#### 4. まとめ

- ◇平成 26 年 10 月実施の内閣府景気ウォッチャー調査の家計動向関連についてみると、景気の現状判断 DI は 42.3 (9 月調査比△4.4 ㊦)、景気の先行き判断 DI が 45.4 (同△2.6 ㊦) と発表された。比較する時期が内閣府と当研究所で異なっているものの、当研究所調査では現状判断 DI が 39.6 (6 月調査比△5.3 ㊦)、先行き判断 DI が 39.1 (同△13.2 ㊦) であり、県内の景気判断が全国平均を下回っていることがわかった。
- ◇本県の消費動向と景気動向に対するウォッチャーの判断は、消費増税後の節約志向などの消費マインドの変化から、来店客数減少や消費意欲悪化などにつながり、半年前と比較した現状判断が下降基調となった。
- ◇消費動向の先行きについては、消費税 10%への引き上げへの懸念などから消費マインドが盛り上がり、厳しく見通しているウォッチャーが多かった。

○調査要領

1. 調査対象者

県内の景気の動きを実態面から敏感に観察できる立場の方140名

2. 回収状況

有効回答数 123 件 回答者の業種・地域は6・7のとおり  
回収率 87.9 %

3. 調査時期

平成26年10月実施

(調査時期について: 第1回は本年6月、第2回は10月に実施したが、  
今後は4月、10月に調査を実施する予定)

4. 調査内容

(1) 半年前と比較した現在の消費動向

(2) (1)の選択理由

(3) 現在と比較した半年後の消費動向

(4) (3)の選択理由

(5) 半年前と比較した現在の景気動向

(6) 現在と比較した半年後の景気動向

※(1)、(3)、(5)、(6)は5段階評価による回答とする。

※ここでは、消費動向は日々の仕事を通じて接する顧客の様子から把握できる購買状況、  
景気動向は回答者の身の回りの経済情勢のことを指す。

5. 判断指数(DI値)の算出方法

5段階の回答区分に、それぞれ下図のとおり点数を与え、これらに各回答区分の構成比(%)を乗じて  
DI値(Diffusion Index)を算出する。

DI値は50を目安としており、50を上回っていれば上昇局面、50を下回っていれば下降局面  
と判断する。

回答区分	良くなった 良くなる	やや良くなった やや良くなる	変わらない	やや悪くなった やや悪くなる	悪くなった 悪くなる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

6. 調査回答者の所属分野・業種

分 野	調査対象者の代表的な業種
小売関連 (46名)	一般小売店 スーパーマーケット コンビニエンスストア など
飲食関連 (24名)	料理店 酒場 など
サービス関連 (38名)	旅館・ホテル タクシー 娯楽業 理美容業 など
住宅関連(15名)	住宅・不動産販売

7. 対象地域の区分

地 域 (調査回答者数)	市 郡 名
県北(32名)	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、伊達郡、安達郡
県中(34名)	郡山市、須賀川市、田村市、岩瀬郡、石川郡、田村郡
県南(13名)	白河市、西白河郡、東白川郡
会津・南会津(16名)	会津若松市、喜多方市、耶麻郡、河沼郡、大沼郡、南会津郡
相双(7名)	南相馬市、相馬市、双葉郡、相馬郡
いわき(21名)	いわき市

本件に関する質問・お問い合わせ先

担当：高橋

TEL 024-523-3171